



松籟荘「家族の会」たより

第59号 (2019年12月28日 発行)



お誕生日おめでとうございます

12月 久子さん(96歳) うめのさん(77歳) なつさん(90歳) マサヨさん(89歳) 豊さん(76歳)
 1月 みよさん(85歳) ひろ子さん(72歳) ハツ子さん(97歳) つねさん(89歳) 豊子さん(91歳)
 紀久子さん(80歳) ラクさん(98歳) 雪江さん(96歳)

初めての鏡餅づくり



2019年12月28日(土) デイサービスの場所をお借りして、2020年を迎える「鏡餅づくり」を行ってみました! 実は施設でも以前、本町中庭で杵と臼を使って餅つきをしたこともありましたが、徐々に参加できる方も少なくなり、餅つきをすることも無くなってしまいました。それから早13年・・・現在の入居されている方の状態像では「餅つきをする」ということは中々難しい部分もありますが、少しでも昔ながらの風情や季節ものを感じて頂きたいと思い一念発起しました!

丁度、寄付で頂いたもち米があったため、前日から厨房のスタッフの協力で、もち米を冷やし、職員の家にある餅つき機を2台持ち込み、「橙」の代わりに、これも職員の家に住っていたミカンを取って来て準備をしました。少々心残りなのは「風情感」の演出として、「杵と臼」が準備できたら最高だったのですが・・・。

入居者・利用者さんには、数日前からお知らせのポスターを各ユニット等へ掲示し、「食べられる訳ではありませんが、ご興味のある方は覗きにきてください!」と念を押させてもらいました。急なお知らせでもあり、ご賞味頂けるわけでは無かったのですが、興味を持ってくださった方がスタート時間よりも前から「まだけ?」と会場周辺に集まり、「こうやって見に来てくれる」「興味を持ってもらえた」ことはとても嬉しかったです。

ですが・・・15:00からの予定が・・・中々もち米が炊き上がらず、30分遅れとなっていました。それでも興味を持ってくださった方が沢山(12~13人ですが)見学に来てくれました。餅つき機で捏ねたお餅は、それはそれは熱くて、職員4人がかりで丸める作業をしましたが、「あ~~~~熱い」「アツアツアツアツ」と悶絶するような状況。そのような姿を入居者・利用者さんは、大きな口を開けて、楽しそうに笑いながら見ておりました。そして、やはり昔を思い出し、懐かしんで頂いたようで「昔はね~」「親戚集まってやってたね~」「アンタのどこではどうしてたの?」「ほら、もっとうまく丸めな!」「少~しずつ、上手くなってきたわ~」など合の手が四方八方から飛び交っていました。



職員の手は真っ赤かになっていましたが、やはり慣れてくるのか?徐々にその熱さにも慣れ、最終的には40個近くの鏡餅を作る事が出来ました。時代の流れと共に既製品が進化し、良いものも沢山ありますが、手作り感や昔ながらの風情を、その小さな鏡餅から感じて頂ければと思います。

現在の施設は温度調節が整い、中々、施設の中で季節感や風情を感じる事が難しい状況下にあると思います。だからこそ、いかにサービス提供者がその視点を忘れず、入居者・利用者さんに楽しみや安らぎを持って頂ける工夫や対応が出来るのか?を探求していくこと、そしてそれを実践に繋げることはとても大切なことだと感じました。

【ちょっと豆知識】

最近は多様な暖房器具があり、昔ながらの「こたつ」を使用されているご家庭も徐々に減っているとの話を耳にしたことがあります。でも、こたつは温かくて、テーブルもあって、本を読んだり、勉強したり、ご飯も食べられるし、ゴロンと横になればウトウトと寝ることもできる冬場の最強器具だと思いませんか?確かに「こたつで寝ると風邪を引く」と言われますが、冷えた体を全方向から温めてくれる一番の暖房器具ではないでしょうか?

ところで、「こたつ」の起源は、室町時代まで遡るそうです。当時の熱源は、囲炉裏の炭に灰をかけて火力を落としたもの。囲炉裏の上に脚のついた台を置き、衣類などをかぶせて使ったとのこと。左の絵は、江戸時代のこたつ(高木貞武・画『絵本和歌浦』より)。男が竹筒のようなものでこたつの炭を吹いているのがわかります。江戸時代には、こういった「掘りごたつ」に加えて、火鉢を熱源にした移動可能な「置きごたつ」も登場したそうです。